

面白いと思ってもらえる
作品を生み出したい



鈴木一太郎さん(共和町)

昔のコンピューターやゲームなどで使われていた「ドット絵」の彫刻作品を手掛ける彫刻家の鈴木一太郎さん。1月23日(土)からアローブで開催される現代美術地域展開事業「境界のかたち 現代美術in大府」に高さ3層を超える「馬」をテーマにしたドット絵作品を出品します。「アローブは幅広い世代の方が利用する施設なので動物のように共通認識があるテーマが良いと思いました。それと公共彫刻の偉人つて馬に乗っているものが多いと思うんですが、今回はその馬に注目して新たな切り口で提案できたらいいなと思いました」と作品に込めた思いを語ります。

鈴木さんはドット絵で表現する手法を生み出したきっかけを「大学院に入るまでは普通の彫刻を上手に作ることを意識していましたが、自分よりも上手に彫刻を作る人はたくさんいました。同じ土俵で勝負していくことに限界を感じ、自分なりの表現をしたいと思ったときに大好きなゲームの世界のドット絵はどうかと思いつきました」と話します。そして誕生したのが代表作の犬の彫刻『レオくん』。動物アレルギーのため動物に直接触ることができない鈴木さんは友達から送られてきた犬の写真を見て、「頻繁に送ってもらううちに、一度も会ったことないレオくんの立体感や存在感というものが自分の中でどんどん形成されていきました。そして写真でしか見たこと

のないレオくんの存在を表現するにはどうしたらいいかと考えたときに、写真データはドット(点)の集合体であることに着目し、一つ一つのドットから組み立てれば自分の頭の中のイメージを表現できるのではないかと思いつきました」と話します。

作品に対するこだわりについて「自分の作品は見る人の頭の中で立体感が想像されて完成するというのがポイントなので、誰が見ても一定に見えるデジタルデータのようない無機質なものを目指しています」と語ります。しかし、素材が木材なのでどうしても湿度で伸縮するそうので「全体を見ながら素材を配置しています。アナログ(木材)と格闘しながらデジタルを作るという効率の悪い作業の中で面白い表現を生み出していきたいです」と制作の苦労を話します。さらに「写真で見ると一瞬CGが現実かが分からなくなるとよく言われます。けど実際に見るとアナログ感があるんです。そのギャップをぜひ楽しんでほしいです」と自身の作品の見どころを話します。

今後について「美術業界だけで活動する彫刻家ではなくて、美術に興味がない方や美術に触れ合う機会がない方たちにも知ってもらえるような彫刻家になりたいです」と目を輝かせて話します。唯一無二のドット絵を使った彫刻表現を確立した鈴木さん。ぜひ圧倒される鈴木さんのドット絵作品に触れてみてください。

